

# 田上町民の体力・健康に関する意識調査

## — 今後のスポーツ・健康行政の在り方と大学が果たす役割に関する一考察 —

新潟経営大学 助教 福田 拓哉  
新潟経営大学 助教 横山 泰  
新潟経営大学 教授 杉浦善次郎

### 《目 次》

#### 緒 言

#### 第1章 方 法

1. 調査対象
2. 調査期間
3. 調査方法
4. 調査内容
5. 個人情報保護に関する配慮

#### 第2章 結果

1. 田上町民の体力・健康に関する意識
  - 1-1. 回答者の概要
  - 1-2. 健康・体力に関する意識
  - 1-3. 運動・スポーツの実施状況と今後の意向
  - 1-4. スポーツに関するボランティア活動
  - 1-5. 地域社会におけるスポーツに関する意識
  - 1-6. スポーツの国際試合に関する意識
  - 1-7. スポーツ振興についての要望

#### 2. 全国調査との比較

- 2-1. 方 法
- 2-2. 健康・体力に関する意識
- 2-3. 運動・スポーツの実施状況と今後の意向
- 2-4. スポーツに関するボランティア活動
- 2-5. 地域社会におけるスポーツに関する意識
- 2-6. スポーツの国際試合に関する意識
- 2-7. スポーツ振興についての要望

#### 第3章 考 察

1. 田上町民の体力・健康に対する意識の特徴
2. 地域における本学の役割と可能性

#### ま と め

#### 謝 辞

### 緒 言

新潟経営大学（以下「本学」と記す）は、平成6年4月に経営情報学を教授する単科大学として設立された。その後、平成17年には競技スポーツマネジメント学科（以下「本学科」と記す）が設置され、スポーツ

を通じて地域に貢献できる人物の養成を行っている。

本学は県央地域18市町村の支援を受けて設立された経緯から、大学が有する専門的な知識やノウハウを地域に還元することにより、積極的に地域に貢献することを使命として研究・教育活動を行ってきた。

本研究の目的は、今後ますます社会的重要度が高まる、健康及びスポーツの分野における地域住民のニー

ズを明確にするとともに、それに対して本学が果たすべき役割について、方向性を見出す資料を得ることであり、更に、地方大学が地域社会において、どのような役割を果たすべきかについても考察を展開することである。

この目的を達成するために、本学が隣接する田上町<sup>i</sup>を対象にして、町教育委員会の協力のもとに、住民の体力・健康に関する意識やスポーツ活動への取り組みの現状と需要について調査した。

## 第1章 方 法

### 1. 調査対象

田上町に在住する20歳以上の町民300名を対象とし、平成21年1月31日現在の住民基本台帳から、性別及び10歳毎の年代別人数割合に比例させて無作為に抽出した。なお、抽出作業は田上町教育委員会が行った。

### 2. 調査期間

平成21年2月10日から28日まで。

### 3. 調査方法

本調査では、個人を対象とした無記名自記式質問紙を用い、調査対象者への配布及び回収は郵送法で行った。また、調査期間において、田上町広報誌に本調査の実施と協力依頼を掲載し、回収率の向上を図った。

### 4. 調査内容

本調査の質問項目は、内閣府の「体力・スポーツに関する世論調査（平成18年8月調査）」に準拠した、1) 健康・体力に関する意識、2) 運動・スポーツの実施状況と今後の意向、3) スポーツに関するボランティア活動、4) 地域社会におけるスポーツに関する意識、5) スポーツの国際試合に関する意識、6) スポーツ振興についての要望、の6項目に、7) 田上町体育指導委員に関する認知、8) 本学の認知度と期待、の2項目を加えて構成した。

「体力・スポーツに関する世論調査」に準拠した理由は、全国的な傾向と田上町のそれとの相違の有無を

明らかにすることで、双方の比較を通じて地域の実情をできるだけ正確に把握し、その特性を見極めるためである。

## 5. 個人情報保護に関する配慮

本調査では、無記名自記式の回答方法を採用するとともに、調査票から個人が特定されないことがないこと、調査票の返信用封筒には回答者の氏名・住所等を記載しないことなどを明記した依頼状を同封した。

調査票の作成、印刷、封入作業は本学が担当し、調査対象者の抽出、住所ラベルの作成と封筒への貼付、調査票の発送を田上町教育委員会が担当した。

回答済み調査票は対象者から本学に郵送され、本学においてデータ入力および分析作業を行った。

このプロセスにより、本学は対象者の個人情報に一切関与しない方式を構築した。

## 第2章 結 果

### 1. 田上町民の体力・健康に関する意識

#### 1-1. 回答者の概要

調査対象となった300人のうち、136人から回答が得られた（回収率45.3%）。

調査対象者抽出時点での田上町の成人における性別及び年代別構成比と回答者における性別及び年代別構成比は表1に示すとおりである。

40歳代から60歳代の女性の回答者の割合が、田上町の成人人口に占める同年代の割合に比べて多く、他方、20歳代と30歳代では、男女ともに少ない。すなわち、本調査の回答者の分布は、田上町の人口構成比と比較した場合、中・高年女性の占める割合が多いという特徴を示している。

#### 1-2. 健康・体力に関する意識

田上町民の自身の健康に対する主観的評価については、表2に示すように、「まあ健康」が75.6%で最も多く、次いで「あまり健康でない」が18.5%、「大いに健康」が5.9%であった。すなわち、自身を健康と評価する者の割合は、「まあ健康」と「大いに健康」

とを合わせた81.5%である。

自身の体力に対する主観的評価については、表3に示すように、「体力は普通である」が58.6%で最も多く、次いで「体力に不安がある」が33.8%、「体力に自身がある」が6.8%であった。すなわち、自身が普通以上の体力を持つと評価する者の割合は、「体力は普通である」と「体力に自身がある」とを合わせた65.4%である。

運動不足感については、表4に示すように、「ある程度感じる」が44.8%で最も多く、次いで「大いに感じる」が33.6%、「あまり感じない」が14.2%、「ほとんど(全く)感じない」が6.0%であった。すなわち、自身が運動不足であると感じている者の割合は、「ある程度感じる」と「大いに感じる」とを合わせた78.4%である。

肥満観については、表5に示すように、「ある程度感じる」が43.0%で最も多く、次いで「大いに感じる」が14.8%、「あまり感じない」が25.9%、「ほとんど(全く)感じない」が16.3%であった。すなわち、肥満を感じる者の割合は、「ある程度感じる」と「大いに感じる」とを合わせた57.8%である。

### 1-3. 運動・スポーツの実施状況と今後の意向

田上町民の過去1年間のスポーツ実施状況については、表6に示されるように、47.8%が「ウォーキング」を挙げ、これが最も多く、次いで31.6%が「体操」を、10.3%が「室内運動器具を使ってする運動」を挙げた。また、18.4%が「運動やスポーツはしなかった」と答えた。

実施頻度については、表7に示すように、「週に1～2日(年51日～150日)」とする者が24.0%で最も多く、次いで「週に3日以上(年151日以上)」が23.1%、「3ヶ月に1～2日(年4日～11日)」が19.2%、「月に1～3日(年12日～50日)」が16.3%であった。すなわち、週に1日以上運動をする者の割合は、「週に1～2日(年51日～150日)」と「週に3日以上(年151日以上)」とを合わせた47.1%である。

運動やスポーツをした理由については、表8に示したとおり、46.5%が「楽しみ、気晴らしとして」を挙げ、

これが最も多く、次いで42.5%が「健康・体力づくりのため」を、40.9%が「運動不足を感じるから」を挙げた。また、26.0%が「友人・仲間との交流として」、15.0%が「美容や肥満解消のため」と答えた。

運動やスポーツを行う際の指導については、表9に示すように、「指導者を必要とする運動・スポーツではない」が28.8%で最も多く、次いで「受けてはいないし今後も受けたいと思わない」が27.9%、「受けてはいないが今後できれば受けたいと思う」が25.0%、「受けている」が9.6%であった。

運動やスポーツをしなかった理由については、表10に示すように、53.8%が「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がないから」を挙げ、これが最も多く、次いで30.8%が「機会がなかった」を、26.9%が「年をとったから」を挙げた。また、19.2%が「体が弱いから」、同じく19.2%が「仲間がいないから」と答えた。

現在やっているものも含めて、今後、やってみたいと思う運動やスポーツは、表11に示すように、50.7%が「ウォーキング」を挙げ、これが最も多く、次いで30.1%が「体操」を、22.1%が「室内運動器具を使ってする運動」、19.9%が「軽い球技」、16.9%が「軽い水泳」、14.7%が「釣り」を挙げた。また、2.9%が「今後行いたいものはない」と答えた。

求めるスポーツ指導者については、表12に示すように、58.8%が「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」を挙げ、これが最も多く、次いで45.6%が「健康・体力づくりのための指導ができる人」を、38.2%が「障害者や高齢者のスポーツ指導ができる人」を挙げた。また、25.0%が「青少年のスポーツ活動を積極的に進めることができる人」、同じく25.0%が「年間を通して定期的に指導ができる人」と答えた。

### 1-4. スポーツに関するボランティア活動

スポーツ・ボランティア活動については、表13に示すように、「あまり行いたいとは思わない」が46.5%で最も多く、次いで「全然(全く)行いたいとは思わない」と「わからない」がともに15.7%、「できれば行いたい」が15.0%、「行った」が4.7%、「ぜひ行いた

い」が2.4%であった。すなわち、スポーツ・ボランティア活動に積極的である者の割合は、「できれば行いたい」、「ぜひ行いたい」および「行った」を合わせて22.1%である。

スポーツ・ボランティア活動の内容については、表14に示すように、「スポーツイベントなどのボランティア」が45.0%で最も多く、次いで「スポーツ活動などの世話や運営」が30.0%、「スポーツの指導」が10.0%であった。

#### 1-5. 地域社会におけるスポーツに関する意識

公共スポーツ施設への希望については、表15に示すように、39.0%が「身近で利用できるように、施設数の増加」を挙げ、これが最も多く、次いで35.3%が「初心者向けスポーツ教室やスポーツ行事の充実」、29.4%が「利用案内などの広報の充実」、22.8%が「健康やスポーツに関する情報の充実」、19.9%が「利用時間帯の拡大（早朝、夜間など）」、16.9%が「利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化」を挙げた。また、16.9%が「特にない」と答えた。

都市型民間スポーツ施設への希望については、表16に示すように、46.3%が「利用料金が安くなること」を挙げ、これが最も多く、次いで42.6%が「身近で利用できるように、施設数の増加」、12.5%が「託児施設の充実」、11.8%が「指導者の資質の向上」を挙げた。また、20.6%が「特にない」と答えた。

子どものスポーツ環境の変化については、表17に示すように、「どちらかといえば悪くなった」が33.3%で最も多く、次いで「よくなった」が18.9%、「どちらかといえばよくなった」が15.9%、「悪くなった」が12.9%であった。

子どものスポーツ環境の変化したところについては、表18に示すように、72.1%が「子どもが自由に遊べる空き地や生活道路が少なくなった」を挙げ、これが最も多く、次いで68.9%が「スポーツや外遊びができる時間が少なくなった」、55.7%が「スポーツや外遊びをする仲間（友達）が少ない」、31.1%が「子どもが自由に利用できるスポーツ施設が少ない」を挙げた。

スポーツクラブや同好会への加入状況については、

表19に示すように、「加入したいと思う」が37.1%で最も多く、次いで「加入したいとは思わない」が32.3%、「既に参加している」が9.7%であった。すなわち、スポーツクラブへの加入に興味のある者の割合は、「加入したいと思う」と「既に参加している」とを合わせて46.8%である。

加入しているスポーツクラブや同好会の種類については、表20に示すように、66.7%が「おおむね同じ市町村内の人が入っている地域のクラブや同好会」を挙げ、これが最も多く、次いで25.0%が「おおむね同じ県内の人が入っているクラブや同好会」、16.7%が「職場のクラブや同好会」を挙げた。

加入しているスポーツクラブや同好会の種目については、表21に示すように、16.7%が「ダンス」および「野球」を挙げ、これが最も多く、次いで8.3%が「軽い球技」、同じく8.3%が「その他」を挙げた。

スポーツクラブや同好会へ加入した動機は、表22に示すように、58.3%が「好きなスポーツ活動ができるから」を挙げ、これが最も多く、次いで41.7%が「健康・体力づくりのため」、25.0%が「技術を習得できるから」を挙げた。また、「継続してできるから」、「場所が優先的に利用できるから」、「親睦のため（仲間ができるから）」、「地域の人達と交流できるから」が、全て16.7%であった。

加入したいと思うスポーツクラブや同好会の種類については、表23に示すように、84.8%が「おおむね同じ市町村内の人が入っている地域のクラブや同好会」を挙げ、これが最も多く、次いで17.4%が「民間スポーツ施設などが開設している会員制のクラブ」、13.0%が「職場のクラブや同好会」、同じく13.0%が「おおむね同じ県内の人が入っているクラブや同好会」を挙げた。

地域におけるスポーツ振興の効果については、表24に示すように、55.1%が「高齢者の生きがいづくり」を挙げ、これが最も多く、次いで47.1%が「地域のコミュニティの形成・活性化」、41.9%が「親子や家族の交流」、41.2%が「子どもの体力づくり」、40.4%が「余暇時間の有効活用」を挙げた。また、22.1%が「地域の健康水準の改善」を挙げた。

## 1-6. スポーツの国際試合に関する意識

国際大会での日本選手の活躍への関心については、表25に示すように、「やや関心がある」が52.3%で最も多く、次いで「非常に関心がある」が34.1%、「あまり関心がない」が9.8%、「ほとんど（全く）関心がない」が3.8%であった。すなわち、国際大会での日本選手の活躍への関心がある者の割合は、「やや関心がある」と「非常に関心がある」とを合わせて86.4%である。

日本選手への公的援助については、表26に示すように、50.7%が「選手のトレーニングや海外遠征などに経済的な援助を行う」を挙げ、これが最も多く、次いで49.3%が「国などが、施設の充実したトレーニング施設をつくる」、同じく49.3%が「コーチ、トレーナーなど指導者の養成を図る」、33.1%が「科学的なトレーニングなどの研究の充実と活用を図る」を挙げた。

国際大会の日本開催については、表27に示すように、「非常によいことだ」が54.3%で最も多く、次いで「まあよいことだ」が31.0%、「一概にいけない」が10.9%であった。すなわち、国際大会の日本開催について肯定的意見を持つ者の割合は、「非常によいことだ」と「まあよいことだ」とを合わせて85.3%である。

## 1-7. スポーツ振興についての要望

スポーツ振興の重点施策としては、表28に示すように、41.9%が「地域のクラブやサークルの育成」を挙げ、これが最も多く、次いで38.2%が「年齢層にあったスポーツの開発普及」、37.5%が「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」、33.1%が「スポーツ指導者の育成」を挙げた。

## 2. 全国調査との比較

### 2-1. 方法

田上町民の体力・健康に関する意識の特徴を、より明確にするために、本調査で得られた結果と平成18年8月に内閣府大臣官房政府広報室が実施した「体力・スポーツに関する世論調査」(以下「全国調査」と記す。)の結果と比較した。

方法は、 $\chi^2$ 乗値による適合度の検定を行い、本調

査と全国調査の回答分布に有意な違いが認められるか否かを確認した。

2つの調査の回答者における性別及び年代別構成比は表1に示すとおりである。

50歳代以上の女性の回答者の割合が、全国調査のそれに比べて多く、20歳代の女性の割合が顕著に少ない。すなわち、本調査の回答者の分布は、全国調査と比較した場合、中・高年女性の占める割合が多いという特徴を示している。

### 2-2. 健康・体力に関する意識

自身の健康に対する主観的評価については、表2に示すとおり、1%水準で有意な違いが認められ、全国調査に比べて、評価の低い層の割合が多い。

自身の体力に対する主観的評価については、表3に示すとおり、1%水準で有意な違いが認められ、全国調査に比べて評価の低い層の割合が多い。

運動不足感については、表4に示すとおり、全国調査に比べて運動不足と感じる層の割合がやや多い傾向が認められるが、統計的に有意な違いは認められなかった。

肥満観については、表5に示すとおり、5%水準で有意な違いが認められ、肥満を感じる者の割合が全体的に多くなっている。

### 2-3. 運動・スポーツの実施状況と今後の意向

過去1年間のスポーツ実施状況については、表6に示すとおり、8種目について全国調査と有意な違いが見られた。

全国調査に比べて田上町民で実施した者の割合が有意に多い種目は「体操」「登山」「ハイキング」「弓道・アーチェリー」であり、特に「登山」「ハイキング」「弓道・アーチェリー」では全国調査の2倍以上の割合である。全国調査に比べて田上町民で実施した者の割合が有意に少ない種目は「軽い球技」「ボウリング」「ランニング」「軽い水泳」であり、田上町民の実施者の割合は全国調査の半分以下となっている。

実施頻度については表7に示すとおり、1%水準で有意な違いがあり、全体として実施頻度が少ない者の

割合が多い。

運動やスポーツをした理由については、表8に示すように、「健康・体力つくりのため」「家族のふれあいとして」「友人・仲間との交流として」の3項目で全国調査と有意な違いが見られ、その全てについて、田上町民でその項目を理由とする者の割合が、全国調査よりも少なかった。

運動やスポーツを行う際の指導については、表9に示すとおり、1%水準で全国調査と有意な違いが見られ、指導を「受けている」者の割合が少なく、指導を希望する者の割合が多い。

運動やスポーツをしなかった理由については、表10に示すように、「仲間がいないから」「指導者がいないから」「機会がなかった」「特に理由はない」「わからない」の5項目で全国調査と有意な違いが見られ、「わからない」を除く4項目について、田上町民でその項目を理由とする者の割合が、全国調査よりも多かった。

現在やっているものも含めて、今後、やってみたいと思う運動やスポーツについては、表11に示すとおり、「わからない」を含めた10種目について全国調査と有意な違いが見られた。全国調査に比べて田上町民で希望する者の割合が有意に多い種目は「体操」「軽い水泳」「室内運動器具を使ってする運動」「登山」「キャンプ、オートキャンプ」「ハイキング」「陸上競技」、「その他の球技スポーツ」である。全国調査に比べて田上町民で実施した者の割合が有意に少ない種目は「今後行いたいものはない」である。

求めるスポーツ指導者については、表12に示すとおり、「障害者や高齢者のスポーツ指導ができる人」「青少年のスポーツ活動を積極的に進めることができる人」「競技力向上のための高度な技術の指導ができる人」の3項目で全国調査と有意な違いが見られ、いずれも田上町民にその様な指導者を求める者の割合が多かった。

#### 2-4. スポーツに関するボランティア活動

スポーツ・ボランティア活動については、表13に示すとおり、1%水準で全国調査と有意な違いがみられ、田上町民では、全体的に、経験者の割合も希望する者

の割合も少ない。

スポーツ・ボランティア活動の内容については、表14に示すとおり、全国調査と有意な違いがみられなかった。

#### 2-5. 地域社会におけるスポーツに関する意識

公共スポーツ施設への希望については、表15に示すとおり、7項目について全国調査と有意な違いがみられ「指導者の配置」「初心者向けスポーツ教室やスポーツ行事の充実」「用案内などの広報の充実」「アフタースポーツのための施設の充実」については田上町民にそれを求める者の割合が多く、また田上町民の方が「わからない」と回答する割合が多い。

都市型民間スポーツ施設への希望については、表16に示すとおり、5項目について全国調査と有意な違いがみられ、「身近で利用できるように、施設数の増加」「指導者の資質の向上」「アフタースポーツのための施設の充実」「託児施設の充実」について田上町民にそれを求める者の割合が多く、また田上町民の方が「わからない」と回答する割合が多い。

子どものスポーツ環境の変化については、表17に示すように、1%水準で全国調査と有意な違いがあり、田上町民は全体的に、改善されたとする回答が多い。

子どものスポーツ環境の変化したところについては、表18に示すように、「スポーツや外遊びができる時間が少なくなった」「子どもが自由に利用できるスポーツ施設が少ない」の2項目で全国調査と有意な違いがあり、田上町民にこれを環境変化の内容として取り上げる者の割合が多い。

スポーツクラブや同好会への加入状況については、表19に示すとおり、1%水準で全国調査と有意な違いがあり、田上町民の方が既加入者の割合が少なく、「わからない」という回答をする者が多い。

加入しているスポーツクラブや同好会の種類については、表20に示すとおり、全国調査との有意な違いはない。

加入しているスポーツクラブや同好会の種目については、表21に示すとおり、「キャンプ、オートキャンプ」「グライダー、ハングライダー」「ボクシング」の3種

目について、田上町民の方が加入者の割合が少ない。

スポーツクラブや同好会へ加入した動機は、表22に示すとおり、全国調査との有意な違いはない。

加入したいと思うスポーツクラブや同好会の種類については、表23に示すとおり、全国調査との有意な違いはない。

地域におけるスポーツ振興の効果については、表24に示すとおり、「親子や家族の交流」「余暇時間の有効活用」「地域のコミュニティの形成・活性化」「世代間交流が促進」「子どもの体力づくり」「青少年の健全育成」「高齢者の生きがいづくり」「地域の健康水準の改善」8項目で全国調査との有意な違いがあり、いずれについても効果があるとする意見を有する者の割合は、全国調査よりも多い。

#### 2-6. スポーツの国際試合に関する意識

国際大会での日本選手の活躍への関心については、表25に示すとおり、全国調査との有意な違いは認められず、約8割が関心を示している。

日本選手への公的援助については、表26に示すとおり、2項目について全国調査との有意な違いがあり、「コーチ、トレーナーなど指導者の養成を図る」については必要と思う者の割合が全国調査よりも多い反面、「公的な援助は必要ない」とする意見の者の割合も全国調査よりも多い。

国際大会の日本開催については、表27に示すとおり、全国調査との有意な違いは認められず、8割が肯定的意見を有している。

#### 2-7. スポーツ振興についての要望

スポーツ振興の重点施策としては、表28に示すとおり、4項目で全国調査と有意な違いが認められた。「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」や「地域のクラブやサークルの育成」を上げる者の割合は全国調査よりも田上町の方が多く、「スポーツに関する国際交流の振興」については逆に田上町民でこれをあげる者の割合が少なかった。

表1 田上町、回答者、全国調査の性・年代別人数構成比

年 齢	男 性			女 性		
	田上町	回答者	全国調査	田上町	回答者	全国調査
20～29歳	6.8%	2.9%	3.7%	6.2%	2.9%	4.9%
30～39歳	7.6%	5.9%	6.5%	7.6%	5.9%	7.5%
40～49歳	7.4%	7.4%	6.2%	7.3%	9.6%	9.9%
50～59歳	10.7%	8.1%	12.7%	10.5%	16.1%	12.6%
60～69歳	7.6%	8.8%	10.6%	8.1%	11.0%	10.0%
70歳以上	8.0%	5.9%	7.1%	12.3%	9.6%	8.2%
合 計	48.0%	39.0%	46.8%	52.0%	55.1%	53.2%

備考：「回答者」には無回答があるため、構成比の合計は100%にならない。

表2 健康評価

	n	大いに健康	まあ健康	あまり健康でない	わからない
田上町	135	5.9%	75.6%	18.5%	0.0%
全 国	1,848	24.2%	61.3%	14.4%	0.1%

$\chi^2 = 24.4975^{**}$

表3 体力評価

	n	体力に 自身がある	体力は 普通である	体力に 不安がある	わからない
田上町	133	6.8%	58.6%	33.8%	0.8%
全国	1,848	13.7%	65.7%	20.3%	0.2%

$\chi^2 = 16.6659^{**}$

表4 運動不足感

	n	大いに 感じる	ある程度 感じる	あまり 感じない	ほとんど (全く) 感じない	わからない
田上町	134	33.6%	44.8%	14.2%	6.0%	1.5%
全国	1,848	26.7%	41.0%	22.6%	9.4%	0.4%

$\chi^2 = 9.418$

表5 肥満感

	n	大いに 感じる	ある程度 感じる	あまり 感じない	ほとんど (全く) 感じない	わからない
田上町	135	14.8%	43.0%	25.9%	16.3%	0.0%
全国	1,848	14.0%	29.4%	31.0%	24.6%	1.0%

$\chi^2 = 13.0146^*$

表6 過去1年間に行ったスポーツ種目

		田上町 n=136	全 国 n=1,848	$\chi^2$
比較的軽いスポーツ	軽い球技	8.8%	15.0%	4.1003 *
	体操	31.6%	22.6%	6.2976 *
	ウォーキング	47.8%	44.2%	0.7146
	ダンス	5.9%	4.4%	0.7275
	ボウリング	7.4%	14.6%	5.6545 *
	ゲートボール	2.2%	3.7%	0.4894
	ランニング	2.9%	9.0%	5.4566 *
	軽い水泳	5.1%	11.7%	5.7343 *
	室内運動器具を使ってする運動	10.3%	8.7%	0.4383
	その他の軽い運動やスポーツ	4.4%	2.7%	0.9190
比較的広域にわたるスポーツ	スキー、スノーボード	3.7%	5.7%	0.6742
	海水浴（遊泳）	5.9%	6.6%	0.1081
	スケート	0.7%	2.0%	0.6032
	登山（クライミング）	8.8%	3.4%	10.4864 **
	キャンプ、オートキャンプ	2.9%	3.7%	0.0713
	ハイキング	8.8%	4.4%	6.2594 *
	ボート、ヨット、ボードセーリング	0.0%	1.6%	1.3119
	ゴルフ	8.1%	9.9%	0.4904
	グライダー、ハングライダー	0.0%	0.2%	0.1915
	サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ	4.4%	4.7%	0.0273
	釣り	3.7%	8.1%	2.9707
	競技スポーツを除くその他の野外スポーツ	0.7%	0.6%	0.1634
競技的スポーツ	陸上競技	1.5%	0.6%	0.6463
	水泳競技	0.7%	0.6%	0.1634
	柔道、剣道、空手、すもう	0.7%	0.9%	0.0429
	ボクシング	0.7%	0.4%	0.0156
	弓道、アーチェリー	4.4%	0.3%	63.3414 **
	野球	6.6%	4.0%	1.7650
	サッカー、フットサル	0.7%	3.4%	2.2525
	ソフトボール	0.7%	2.7%	1.3794
	バレーボール	1.5%	3.8%	1.3892
	テニス、ソフトテニス	0.0%	3.0%	3.2384
	卓球	1.5%	2.9%	0.5147
	その他の球技スポーツ	2.2%	1.7%	0.0143
	その他の競技的スポーツ	0.0%	0.4%	0.0036
運動やスポーツはしなかった	18.4%	25.5%	3.6088	
わからない	0.7%	0.0%	— —	

表7 実施頻度

	n	週に3日以上 (年151日以上)	週に1～2日 (年51日～150日)	月に1～3日 (年12日～50日)	3ヶ月に1～2日 (年4日～11日)	年に1～3日	わからない
田上町	104	23.1%	24.0%	16.3%	19.2%	13.5%	3.8%
全 国	1,848	29.1%	30.5%	21.9%	9.6%	8.8%	0.1%

$\chi^2 = 122.4614^{**}$

表8 運動やスポーツをした理由

	田上町 n=127	全 国 n=1,848	$\chi^2$
健康・体力づくりのため	42.5%	55.0%	8.0177 **
楽しみ、気晴らしとして	46.5%	50.1%	0.6584
運動不足を感じるから	40.9%	41.2%	0.0047
精神の修養や訓練のため	4.7%	3.2%	0.5018
自己の記録や能力を向上させるため	2.4%	4.4%	0.7790
家族のふれあいとして	8.7%	15.0%	3.9534 *
友人・仲間との交流として	26.0%	35.4%	4.9071 *
美容や肥満解消のため	15.0%	15.2%	0.0039
その他	3.1%	1.5%	1.2508
わからない	16.5%	0.0%	— —

表9 運動指導を受けた経験と希望

	n	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
田上町	104	9.6%	1.0%	25.0%	27.9%	28.8%	1.9%	5.8%
全 国	1,848	16.7%	3.1%	19.4%	37.3%	22.2%	0.3%	0.9%

$\chi^2 = 33.1669^{**}$

- ① 受けている
- ② 自分の要望どおりの指導ではないが受けている
- ③ 受けていないが今後できれば受けたいと思う
- ④ 受けてはいないし今後も受けたいと思わない
- ⑤ 指導者を必要とする運動・スポーツではない
- ⑥ その他
- ⑦ わからない

表10 運動やスポーツをしなかった理由

	田上町 n=	全 国 n=	$\chi^2$
仕事（家事・育児）が忙しくて時間がない	53.8%	51.6%	0.0504
体が弱いから	19.2%	17.8%	0.0049
年をとったから	26.9%	17.4%	1.0386
場所や施設がないから	11.5%	4.7%	1.3806
仲間がないから	19.2%	4.2%	11.0502 **
指導者がいないから	7.7%	0.8%	8.1151 **
金がかかるから	11.5%	4.2%	1.8682
運動・スポーツは好きではないから	7.7%	10.4%	0.0168
その他	3.8%	3.6%	0.2224
機会がなかった	30.8%	5.5%	27.3372 **
特に理由はない	23.1%	6.8%	10.8999 **
わからない	0.0%	0.2%	3.8674 *

表11 今後のスポーツ希望種目

		田上町 n=136	全 国 n=1,848	$\chi^2$
比較的軽いスポーツ	軽い球技	19.9%	15.9%	1.6273
	体操	30.1%	22.4%	4.6389
	ウォーキング	50.7%	45.0%	1.7853
	ダンス	9.6%	7.8%	0.6127
	ボウリング	12.5%	11.6%	0.1074
	ゲートボール	6.6%	4.2%	1.9469
	ランニング	5.1%	9.3%	2.8441
	軽い水泳	16.9%	24.8%	4.5512 *
	室内運動器具を使ってする運動	22.1%	11.1%	16.6763 **
	その他の軽い運動やスポーツ	5.1%	3.2%	1.5850
比較的広域にわたるスポーツ	スキー、スノーボード	11.0%	9.6%	0.3072
	海水浴（遊泳）	5.1%	5.7%	0.0911
	スケート	0.7%	2.7%	1.3794
	登山（クライミング）	11.8%	7.3%	4.0697 *
	キャンプ、オートキャンプ	12.5%	6.1%	9.7253 **
	ハイキング	12.5%	6.4%	8.4478 **
	ボート、ヨット、ボードセーリング	3.7%	5.4%	0.4726
	ゴルフ	11.8%	13.0%	0.1732
	グライダー、ハングライダー	0.7%	2.3%	0.9192
	サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ	6.6%	5.8%	0.1593
	釣り	14.7%	9.8%	3.6940
	競技スポーツを除くその他の野外スポーツ	0.7%	0.6%	0.1634
競技的スポーツ	陸上競技	2.9%	0.6%	8.7734 **
	水泳競技	0.7%	1.5%	0.4792
	柔道、剣道、空手、すもう	1.5%	2.0%	0.3216
	ボクシング	0.0%	0.7%	0.5243
	弓道、アーチェリー	0.7%	1.2%	0.3296
	野球	5.1%	4.5%	0.4708
	サッカー、フットサル	3.7%	3.4%	0.3116
	ソフトボール	3.7%	2.7%	0.5111
	バレーボール	3.7%	4.2%	0.3154
	テニス、ソフトテニス	2.9%	6.7%	2.7011
	卓球	6.6%	3.9%	2.2067
	その他の球技スポーツ	7.4%	2.3%	13.5521 **
	その他の競技的スポーツ	0.7%	0.6%	0.4721
今後行いたいものはない	2.9%	13.9%	11.3704 **	
わからない	2.2%	0.5%	5.1382 **	

表12 求めるスポーツ指導者

	田上町 n=136	全 国 n=1,848	$\chi^2$
スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人	58.8%	51.7%	2.7455
健康・体力づくりのための指導ができる人	45.6%	40.0%	1.7771
障害者や高齢者のスポーツ指導ができる人	38.2%	22.8%	18.3243 **
青少年のスポーツ活動を積極的に進めることができる人	25.0%	12.8%	18.1356 **
競技力向上のための高度な技術の指導ができる人	14.7%	8.9%	5.6427 *
スポーツイベント（大会や教室など）の企画や運営ができる人	11.0%	8.1%	1.5365
年間を通して定期的に指導ができる人	25.0%	23.2%	0.2473
いろいろなニュースポーツの指導ができる人	6.6%	6.9%	0.0191
指導に関する資格を持っている人	14.0%	18.6%	1.9007
その他	0.7%	0.2%	0.1194
わからない	9.6%	12.5%	1.0457

表13 スポーツ・ボランティア活動

	n	行った	ぜひ行いたい	できれば行いたい	あまり行いたいとは思わない	全然(全く)行いたいとは思わない	わからない
田上町	127	4.7%	2.4%	15.0%	46.5%	15.7%	15.7%
全 国	1,848	7.9%	1.6%	18.5%	32.7%	37.7%	1.7%

$\chi^2 = 163.07^{**}$

表14 スポーツ・ボランティア活動の内容

	n	スポーツの指導	スポーツ活動などの世話や運営	スポーツイベントなどのボランティア	その他	わからない
田上町	20	10.0%	30.0%	45.0%	5.0%	10.0%
全 国	370	10.5%	30.0%	52.4%	1.4%	5.7%

$\chi^2 = 0.496$

表15 公共スポーツ施設への要望

	田上町 n=136	全 国 n=1,848	$\chi^2$
身近に利用できるように、施設数の増加	39.0%	34.7%	1.1098
指導者の配置	16.2%	9.9%	6.0515 *
初心者向けスポーツ教室やスポーツ行事の充実	35.3%	23.1%	11.3952 *
利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化	16.9%	20.8%	1.2557
利用時間帯の拡大（早期、夜間など）	19.9%	25.9%	2.5511
利用案内などの広報の充実	29.4%	16.1%	17.8096 *
アフタースポーツのための施設の充実	15.4%	9.8%	4.8248 *
健康やスポーツに関する情報の充実	22.8%	13.0%	11.5486 *
託児施設の充実	9.6%	8.0%	0.4730
その他	1.5%	2.1%	0.0357
特になし	16.9%	26.9%	6.9162 *
わからない	8.8%	2.7%	17.0109 *

表16 都市型民間スポーツ施設への要望

	田上町 n=136	26.9全 国 n=1,848	$\chi^2$
身近に利用できるように、施設数の増加	42.6%	23.4%	27.970 **
指導者の資質の向上	11.8%	7.3%	4.070 *
プログラム内容の充実	8.8%	7.8%	0.189
利用料金が安くなること	46.3%	50.6%	1.006
アフタースポーツのための施設の充実	11.0%	5.3%	8.804 **
託児施設の充実	12.5%	7.5%	4.901 *
その他	2.2%	0.6%	3.463
特になし	20.6%	31.4%	7.364
わからない	10.3%	4.0%	12.464 **

表17 子どものスポーツ環境の変化

	n	よくなった	どちらかといえばよくなった	変わらない	どちらかといえば悪くなった	悪くなった	わからない
田上町	136	18.9%	15.9%	6.1%	33.3%	12.9%	12.9%
全 国	1,848	13.0%	13.7%	7.0%	34.6%	28.5%	3.2%

$\chi^2 = 51.711**$

表18 子どものスポーツ環境の変化したところ

	田上町 n=136	全 国 n=1,848	$\chi^2$
スポーツや外遊びができる時間が少なくなった	68.9%	49.5%	9.1841 **
子どもが自由に遊べる空き地や生活道路が少なくなった	72.1%	71.6%	0.0075
子どもが自由に利用できるスポーツ施設が少ない	31.1%	15.2%	11.9642 **
スポーツや外遊びをする仲間（友達）が少ない	55.7%	44.3%	3.2128
地域におけるスポーツ指導者が少ない	14.8%	8.1%	2.8336
親子でスポーツに親しむ機会が少ない	23.0%	20.8%	0.1792
その他	0.0%	5.7%	2.7030
わからない	0.0%	1.5%	0.1911

表19 スポーツクラブ

	n	既に参加している	参加したいと思う	参加したいとは思わない	わからない
田上町	124	9.7%	37.1%	32.3%	21.0%
全 国	1,848	15.3%	38.3%	45.1%	1.3%

$\chi^2 = 361.6141**$

表20 参加しているスポーツクラブの種類

	田上町 n=136	全 国 n=1,848	$\chi^2$
職場のクラブや同好会	16.7%	21.9%	0.0075
学校のクラブや同好会	0.0%	7.4%	0.1831
おおむね同じ県内の人が入っているクラブや同好会	25.0%	14.5%	0.3883
おおむね同じ市町村内の人が入っている地域のクラブや同好会	66.7%	53.7%	0.3766
民間スポーツ施設などが開設している会員制のクラブ	0.0%	17.0%	1.4007
その他	8.3%	1.8%	0.3696
わからない	0.0%	0.0%	— —

表21 加入しているスポーツクラブの種目

	田上町 n=12	全 国 n=283	$\chi^2$
軽い球技	8.3%	7.4%	0.1869
体操	0.0%	15.2%	1.1333
ウォーキング	0.0%	3.9%	0.0023
ダンス	16.7%	6.7%	0.6532
ボウリング	0.0%	1.1%	1.0374
ゲートボール	0.0%	7.8%	0.2203
ランニング	0.0%	1.1%	1.0374
水泳	0.0%	5.7%	0.0525
室内運動器具を使ってする運動	0.0%	2.8%	0.0824
スキー、スノーボード	0.0%	3.2%	0.0362
スケート	0.0%	0.0%	— —
登山（クライミング）	0.0%	1.8%	0.3803
キャンプ、オートキャンプ	0.0%	0.4%	4.2734 *
ハイキング	0.0%	1.4%	0.6654
ボート、ヨット、ボードセーリング	0.0%	0.4%	4.2734
ゴルフ	0.0%	12.7%	0.7881
グライダー、ハングライダー	0.0%	0.4%	4.2734 *
サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ	0.0%	0.7%	2.0747
釣り	0.0%	1.4%	0.6654
陸上競技	0.0%	1.1%	1.0374
柔道、剣道、空手、すもう	0.0%	2.5%	0.1368
ボクシング	0.0%	0.4%	4.2734 *
弓道、アーチェリー	0.0%	0.0%	— —
野球	16.7%	9.2%	0.1596
サッカー、フットサル	0.0%	4.9%	0.0138
ソフトボール	0.0%	7.1%	0.1565
バレーボール	0.0%	6.7%	0.1232
テニス、ソフトテニス	0.0%	8.5%	0.2897
卓球	0.0%	3.5%	0.0158
その他	8.3%	6.0%	0.0741

表22 加入した動機

	田上町 n=12	全 国 n=283	$\chi^2$
継続してできるから	16.7%	26.5%	0.1955
場所が優先的に利用できるから	16.7%	9.2%	0.1596
施設用具などが完備しているから	0.0%	8.1%	0.2494
指導者がいるから	8.3%	15.2%	0.0696
親睦のため（仲間ができるから）	16.7%	47.7%	3.4635
健康・体力づくりのため	41.7%	60.4%	1.0597
好きなスポーツ活動ができるから	58.3%	43.1%	0.5957
技術を習得できるから	25.0%	10.2%	1.4813
親子や家族で参加できるから	8.3%	7.8%	0.2243
地域の人達と交流できるから	16.7%	25.9%	0.1584
その他	0.0%	1.4%	0.6654
わからない	0.0%	0.0%	— —

表23 加入したいクラブ

	田上町 n=46	全 国 n=	$\chi^2$
職場のクラブや同好会	13.0%	15.8%	0.1015
学校のクラブや同好会	4.3%	6.5%	0.0938
おおむね同じ県内の人加入しているクラブや同好会	13.0%	15.1%	0.0368
おおむね同じ市町村内の人加入している地域のクラブや同好会	84.8%	64.9%	7.1470
民間スポーツ施設などが開設している会員制のクラブ	17.4%	23.3%	0.5963
その他	0.0%	0.3%	0.9525
わからない	0.0%	2.0%	0.1957

表24 期待する地域におけるスポーツ振興の効果

	田上町 n=136	全 国 n=1,848	$\chi^2$
親子や家族の交流	41.9%	32.9%	4.9901 *
余暇時間の有効活用	40.4%	26.4%	13.7187 **
地域のコミュニティの形成・活性化	47.1%	36.3%	6.8603 **
世代間交流が促進	29.4%	22.1%	4.2097 *
子どもの体力づくり	41.2%	30.9%	6.7574 **
青少年の健全育成	28.7%	21.2%	4.5793 *
高齢者の生きがいづくり	55.1%	41.4%	10.5216 **
地域の健康水準の改善	22.1%	13.5%	8.6136 **
スポーツ施設の有効利用	24.3%	18.3%	3.2747
その他	0.0%	0.3%	0.0208
効果はない	0.7%	2.8%	1.4996
わからない	2.9%	6.0%	1.8003

表25 国際大会での日本選手の活躍への関心

	n	非常に関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	ほとんど(全く)関心がない	わからない
田上町	132	34.1%	52.3%	9.8%	3.8%	0.0%
全 国	1,848	41.4%	43.8%	10.7%	4.0%	0.2%

$\chi^2 = 3.77$

表26 日本選手に必要な公的援助

	田上町 n=136	全 国 n=1,848	$\chi^2$
科学的なトレーニングなどの研究の充実と活用を図る	33.1%	26.9%	2.6586
国などが、施設の充実したトレーニング施設をつくる	49.3%	43.1%	2.1317
優れた選手の表彰や年金などを充実充実させる	27.2%	36.4%	4.9723
選手のトレーニングや海外遠征などに経済的な援助を行う	50.7%	48.2%	0.3404
コーチ、トレーナーなど指導者の養成を図る	49.3%	37.7%	7.7916 **
その他	0.0%	0.2%	0.2725
公的な援助は必要ない	7.4%	3.5%	6.1245 *
わからない	10.3%	7.7%	1.2936

表27 国際大会の日本での開催

	n	非常によいことだ	まあよいことだ	よいことではない	一概にいけない	わからない
田上町	129	54.3%	31.0%	1.6%	10.9%	2.3%
全 国	1,848	45.2%	40.2%	2.1%	11.3%	1.2%

$\chi^2 = 5.2117$

表28 スポーツ振興行政の重点施策

	田上町 n=136	全 国 n=1,848	$\chi^2$
各種スポーツ行事・大会・教室の開催	37.5%	26.2%	8.9813 **
地域のクラブやサークルの育成	41.9%	26.7%	16.0550 **
スポーツ指導者の育成	33.1%	37.2%	0.9786
スポーツに関する広報活動	18.4%	16.9%	0.2179
学校体育施設の開放・整備	30.9%	32.0%	0.0756
野外スポーツ活動施設の整備	22.8%	20.5%	0.4414
野外を除く各種スポーツ施設の整備	16.2%	11.2%	3.4186
スポーツに関する国際交流の振興	5.9%	17.3%	12.3537 **
スポーツに関する科学研究の促進	11.0%	11.0%	0.0000
スポーツボランティアの支援	12.5%	18.1%	2.8771
年齢層にあったスポーツの開発普及	38.2%	33.9%	1.1222
公共スポーツ施設における健康・体力相談体制の整備	19.1%	18.3%	0.0582
その他	3.7%	0.6%	17.0245 **
力を入れてもらいたいものはない	5.9%	4.3%	0.8461
わからない	6.6%	6.1%	0.0594

### 第3章 考 察

#### 1. 田上町民の体力・健康に対する意識の特徴

##### 1-1. 健康・体力に関する意識

田上町民における自身の健康に対する主観的評価は、全国調査に比べて評価の低い層の割合が多かった。また、自身の体力に対する主観的評価についても、全国調査に比べて評価の低い層の割合が多かった。さらに肥満観について、肥満を感じる者の割合が全体的に多かった。

以上の結果から、田上町民の健康と体力に対する主観的評価は、全国的な水準よりもやや低いことが示唆された。

##### 1-2. 運動・スポーツの実施状況と今後の意向

田上町民の過去1年間のスポーツ実施状況について、全国調査に比べて実施した者の割合が多い種目は「体操」「登山」「ハイキング」「弓道・アーチェリー」であり、特に「登山」「ハイキング」「弓道・アーチェリー」では実施者の割合は全国調査の2倍以上であった。これらは「弓道・アーチェリー」を除き、特に施設や設備を必要とせず、地域の自然環境に依拠した種目といえる。実施した者の割合が少ない種目は「軽い球技」「ボウリング」「ランニング」「軽い水泳」であり、田上町民の実施者の割合は全国調査の半分以下となった。これらは、「ランニング」を除けば、専用施設を必要とする種目である。また、実施頻度について、週に1日以上運動をする者の割合が47.1%であり、全体として実施頻度が少ない者の割合が多かった。

以上の結果は、田上町民のスポーツ実施の特徴をよく示している。すなわち、スポーツ施設に依存せず、身近な環境で実施可能な種目を行っている反面、施設を必要とする種目は実施が困難であることから、スポーツ実施頻度が少ない者の割合が多くなり、それが健康と体力に対する主観的評価を低くするという影響を与えているものと推察される。

運動やスポーツをした理由について、「健康・体力づくりのため」「家族のふれあいとして」「友人・仲間

との交流として」の3項目で全国調査と違いが見られ、その全てについて、田上町民でその項目を理由とする者の割合が、全国調査よりも少なかった。このことから、田上町民はスポーツを実施した際に、健康・体力づくり、コミュニケーション促進に対する自己効力感が低いことが明らかとなった。

運動やスポーツを行う際の指導について、指導を「受けている」者の割合が少なく、指導を希望する者の割合が多かった。さらに、運動やスポーツをしなかった理由について、「仲間がいないから」「指導者がいないから」「機会がなかった」の項目で全国調査との違いが見られ、その項目を理由とする者の割合が多かった。求めるスポーツ指導者については、「障害者や高齢者のスポーツ指導ができる人」「青少年のスポーツ活動を積極的に進めることができる人」「競技力向上のための高度な技術の指導ができる人」の3項目で全国調査との違いが見られ、いずれも田上町民にその様な指導者を求める者の割合が多かった。これらの結果は相互に強く関連していると考えられ、田上町民のスポーツ実施者の意識としては、指導者不足と機会の不足がスポーツ実施を妨げていることが示唆された。

田上町民が現在やっているものも含めて、今後、やってみたいと思う運動やスポーツは、「体操」「軽い水泳」「室内運動器具を使ってする運動」「登山」「キャンプ、オートキャンプ」「ハイキング」「陸上競技」、「その他の球技スポーツ」であり、全国調査に比べて「今後行いたいものはない」の回答が少なかった。また、有意な差としては表れていないが、「軽い球技」の割合も比較的高い。これらの結果から、田上町民は、全国調査に比べて実施者の少ない「軽い球技」や「軽い水泳」など、現在ないものを求める一方で、「登山」、「ハイキング」など田上町において特徴的な傾向を示した種目に関しては、将来的にも希望していることがわかった。

スポーツ・ボランティア活動については、活動に積極的である者の割合が22.1%であり、経験者の割合も、希望する者の割合も全国調査に比べて少ない。

公共スポーツ施設への希望については、「指導者の配置」「初心者向けスポーツ教室やスポーツ行事の充

実」「利用案内などの広報の充実」「アフタースポーツのための施設の充実」についてそれを求める者の割合が多く、「特にない」と回答する者の割合が少ない。

都市型民間スポーツ施設への希望については、「身近で利用できるように、施設数の増加」「指導者の資質の向上」「アフタースポーツのための施設の充実」「託児施設の充実」についてそれを求める者の割合が多かった。

子どものスポーツ環境の変化について、全体的に、改善されたとする回答が多い一方で、子どものスポーツ環境の変化したところについて、「スポーツや外遊びができる時間が少なくなった」「子どもが自由に利用できるスポーツ施設が少ない」の2項目で全国調査と違いがあり、これを環境変化の内容として取り上げる者の割合が多い。これらの結果から、田上町ではスポーツ・ボランティア活動に積極的である者の割合が少なく、一方で、スポーツ指導者と手近なスポーツ施設を求める傾向があることがわかる。

スポーツクラブや同好会への加入状況について、スポーツクラブへの加入に興味のある者の割合が46.8%であり、田上町民の加入割合が少なく、「わからない」という回答をする者が多い。

以上のことから、施設・機会・指導者の不足が、田上町民の健康・体力づくりやコミュニケーション促進に対する自己効力感、スポーツ・ボランティア活動に積極的である者の割合の低さ、スポーツクラブや同好会への加入割合の低さなどに影響を及ぼしていると思われる。

### 1-3. スポーツ行政と振興策への要望

地域におけるスポーツ振興の効果については、「余暇時間の有効活用」「地域のコミュニティの形成・活性化」「子どもの体力づくり」「高齢者の生きがいづくり」「地域の健康水準の改善」の項目で、効果があるとする意見の割合が多く、国際大会での日本選手の活躍への関心については全国調査との有意な違いは認められない一方で、日本選手への公的援助については、「コーチ、トレーナーなど指導者の養成を図る」について必要と思う者の割合が多く、「公的な援助は必要

ない」とする意見の割合も多かった。また、国際大会の日本開催については、全国調査との有意な違いは認められない一方で、スポーツ振興の重点施策としては、「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」や「地域のクラブやサークルの育成」を挙げる者の割合が多かった。

これらの結果は、本調査の回収率と回答数から総合的に判断して、本回答者のスポーツ振興に対する関心の高さが田上町全体の傾向と一致するとは言い難く、調査内容に関心があるスポーツ振興意識の高い町民の意識が反映されている可能性は高い。しかしながら、特に高い $\chi^2$ 値を示した、日本選手への公的援助についての「コーチ、トレーナーなど指導者の養成を図る」、スポーツ振興の重点施策についての「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」や「地域のクラブやサークルの育成」に関しては、特に興味深い点であり、前述の考察で明らかとなった因子に寄与しているものと推察される。

### 1-4. 田上町民の体力・健康に対する意識の考察からの知見

地域住民の体力・健康に対する意識が高まり、その促進に向け実践できるようにすることは、地域社会全体に重要なことである。本研究での考察から、体力・健康に対する意識の向上を図るためには、今後以下の事項の検討が必要と考えられる。

- (1) 田上町民の健康と体力に対する主観的評価を下げている原因を明確化すること  
スポーツ実施頻度が少ない者の割合が全国調査よりも多いこと、スポーツをすることの自己効力感不足が原因の一部である可能性が示された。さらに、その他の原因を明確にする必要がある。
- (2) スポーツ実施と指導者の需要に関する意識の傾向を明確化すること  
特に、人々が求めるスポーツ指導者とスポーツ機会の不足について、質的・量的両面で明確にする必要がある。
- (3) 地域におけるスポーツ振興の意識について主な特徴を明確化すること

スポーツ行事・大会・教室・クラブ・サークルについて地域の人々が求める具体的な在り方について明確にする必要がある。

## 2. 地域における本学の役割と可能性

本調査結果からは、田上町民のスポーツ実施者が指導者不足を感じていること、そしてスポーツを実施しない理由は指導者と機会が不足しているためであることが示唆された。また、定期的に運動に取り組む住民が全国平均と比較して少ないことの理由として、「仲間がないから」「指導者がいないから」「機会がなかった」という3点が明らかになった。

こうした問題は適切な指導者を確保し、運動・スポーツをする場面を提供することを通じて、参加者同士が相互に触れ合う環境を創造することによって解決することができると考えられる。ここで問題となるのが指導者と活動場所である。この二つを行政施策のみで解決しがたい場合、本学がその手助けをすることが可能である。なぜならば、田上町民が求める「障害者や高齢者のスポーツ指導ができる人」「青少年のスポーツ活動を積極的に進めることができる人」「競技力向上のための高度な技術の指導ができる人」という指導者が本学には多数在籍しているからである。

このような地域住民の要望やそれに応えて実現させようとする行政の課題に本学が協力することは、単に大学が社会貢献の機能を果たすだけに留まらず、教育内容を周知させることで大学の知名度を向上させ、大学について理解を促すことにもつながる。

表29が示すように、田上町民における本学の知名度

表29 新潟経営大学の知名度

	n	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない
全体	132	21.2%	59.1%	15.2%	4.5%
男性	54	18.5%	66.7%	13.0%	1.9%
女性	77	23.4%	53.2%	16.9%	6.5%

は、「よく知っている」、「知っている」を合わせると80.3%と高い水準にある。しかし、表30が示すように、本学科に関しては、「あまり知らない」、「全く知らない」を合わせると76.7%となり、身近な地域において、その存在が知られていないことを示している。

しかし、本学科には前述のとおり、田上町民の望む指導者が多数在籍する。こうした人的資産を活用し、地域の住民を対象とした運動・スポーツ教室を開催することによって、大学教員と住民との交流が生まれ、これを契機として住民の本学に対する認知度が高まり、相互の理解と協力が促進されるものと考えられる。研究者は住民の健康や体力、日常の意識や行動に関するデータを収集することも可能になり、そこから社会的課題を抽出し、原因を掘り下げて、住民とともに解決策を探ることで、研究を深め、実践力を養うことができる。

また、地域住民を対象とした様々な活動にトレーニング科学や指導論を学ぶ学生たちを補助として派遣することは、知識を血肉化するための実践の機会を獲得することとなり、参加者との交流を通して学生達のコミュニケーション能力の向上にもつながる。

このように本学科の資産を積極的に地域に還元することによって、社会貢献・教育・研究という3つが融合できるのである。

実際に、表31、表32が示すとおり、田上町民の本学に対する期待は大きい。特に施設の提供、教員による実践指導、正しい知識の習得の3項目には回答者の30%以上が期待を寄せている。

表30 本学競技スポーツマネジメント学科の知名度

	n	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない
全体	133	2.3%	21.1%	27.8%	48.9%
男性	54	1.9%	29.6%	22.2%	46.3%
女性	77	1.3%	15.6%	32.5%	50.6%

表31 運動やスポーツをするにあたって新潟経営大学に期待すること

	n	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
全 体	136	41.9%	30.1%	41.9%	24.3%	21.3%	19.9%	1.5%	22.1%
男 性	54	46.3%	37.0%	46.3%	22.2%	31.5%	14.8%	1.9%	24.1%
女 性	77	41.6%	27.3%	41.6%	27.3%	15.6%	24.7%	1.3%	20.8%

- ① 運動やスポーツをするための場所の提供
- ② 教員による健康・体力づくりの実践指導
- ③ 健康・体力づくりに関する正しい知識の習得
- ④ 運動やスポーツを通じた学生との触れ合い
- ⑤ 怪我予防に関する実践指導
- ⑥ 競技力向上に向けた実践指導
- ⑦ その他
- ⑧ 特になし

表32 新潟経営大学での運動・体力づくりに関する教室・イベントへの参加意向

	n	是非参加したい	可能であれば参加したい	あまり参加したくない	全く参加したくない	わからない
全 体	132	3.8%	47.7%	16.7%	9.8%	22.0%
男 性	54	3.7%	57.4%	9.3%	9.3%	20.4%
女 性	76	3.9%	42.1%	22.4%	7.9%	23.7%

## ま と め

前章の考察を通じ、以下の二点が明確になった。

一つ目として、田上町民の体力・運動に関する意識は全国平均と有意な相違が見られる点が多く、田上町の健康・スポーツ行政は、こうした地域の実情を鑑みたまの必要があるということである。前章で述べた通り、特に田上町民の健康・体力に対する主観評価が全国平均値と比較して低い水準にある点は早急な対応が必要であろう。

二つ目として、本学または本学科が上記の問題の解決に向けて、貢献できる可能性を大いに秘めているということである。上記で述べた課題の原因として指導者不足と機会の不足が示唆されたが、本学または本学科が有する物的・人的資源を活用することによって、これらを解決できる可能性は前章で示したとおりである。

以上のことから、田上町民の健康・体力の向上のためには、行政と大学との提携が有効であるといえる。しかしながら、大学の社会貢献活動には、「教員の多忙」

という壁が立ちはだかっている（内藤、2006）。

これを克服するためには、研究・教育・社会貢献といった活動をそれぞれ別個に行うのではなく、これらを融合させていくことで、負担を軽減させていく必要があるだろう（福田、2009）。

今後の課題として、調査で明らかとなった問題点を克服するためのプログラム作成と実施が挙げられる。これに関して、本学では田上町教育委員会との提携により、地域住民を対象とした健康・トレーニング教室を平成21年3月開催した。1回の座学と3度の実践トレーニング教室から構成されたこの企画は、参加者の評判もよく、本学科に対する知名度やイメージにもポジティブな変化が見られた<sup>ii</sup>。

このような活動を発展・継続させるためには、教員の負担を軽減し、持続可能な仕組みを構築する必要がある。先にも述べた通り、教育・研究・社会貢献との融合を如何にシステマ的に図っていくかが課題となるだろう。

これらの課題を解決し、地域によって設立された大学としての使命を果たしていきたい。

---

## 謝 辞

今回の研究は筆者の一人である福田を代表とする学内共同研究『スポーツを通じた地域活性化の検討—大学・住民・行政・企業とのコラボレーションについて—』における調査研究を基盤としている。本調査を実施するにあたり、田上町教育委員会の皆様には多大なるご支援・ご協力をいただいた。ここに記して感謝申し上げる。

- 
- i 新潟県の県央地域にあり、新潟市と隣接する町。面積は31.77km<sup>2</sup>、人口は13,363人（平成17年度）。
  - ii 平成21年3月から4月までの1ヶ月間、本学科の教員が講師を担当する健康・トレーニング教室を開催した。健康に対する講義（1回）とトレーニング指導（3回）を行った。また、同年7月からは、田上町からの受託事業として4ヶ月にわたる健康・トレーニング教室を実施した。これらについては、また稿を改めて報告する。

---

## 〈参考文献・資料〉

1. 内閣府（2006）『体力・スポーツに関する世論調査』
2. 福島大学スポーツユニオン（2004）『スポーツによる地域貢献で大学は変わる』
3. 西田佳世、他（2008）「地域住民の健康意識と愛媛県立医療技術大学への期待」『愛媛県立医療技術大学紀要』第5巻第1号、pp.97-104
4. 内藤正和（2006）「運動・スポーツを通じた大学の地域貢献に関する研究—大学の資源に着目して—」愛知学院大学心身科学部紀要第2号増刊号、pp.69-76.
5. 福田拓哉（2009）「大学・地域・企業の連携によるスポーツを通じた地域活性化」『地域活性化ジャーナル』第15号、pp.67-77
6. 田上町ホームページ  
<http://www.town.tagami.niigata.jp/>